

顧問挨拶

特許技監

南 孝一



それでは、特許懇の顧問として一言皆様に御挨拶申し上げます。

まずは御来賓の皆様、お忙しい中お越し頂きましてありがとうございます。私の前に御挨拶頂きました御来賓の方々には、お褒めの言葉、大変な期待、それから耳の痛いお話を頂きました。いずれも、我々に対する叱咤激励として、今後の特許行政に取り組んでいきたいと思

冒頭、川上代表委員のほうから御紹介がありましたけれども、この会合は、会員と、関係団体、関係省庁、ユーザーの皆様方の親睦をはかるというのが趣旨でございま

す。そして、毎年でございますが今日のメインイベントは、新たに特許懇の会員になった新人達の歓迎会でござ

います。そのような会ではありますが、本日多数の御来賓の方々がいらっしゃいますので、この場をお借りして、この特許懇の顧問として皆様方に、一言御詫びを述べさせて頂きたいと思

先般、この特許懇の会員が事件を起こし、関係の皆様方、ユーザーの皆様方に多大なる御心配、御迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。このようなことは本当に二度とあってはならないことでありまして、今後再発することがないように、会員一同取り組んで参ります。ただ、私としては、当初この事件が起きて心配していたほどには、特許庁の組織に対する批判というのは少なかったのではないかと

思っております。これはひとえに、これまでの特許懇会員の皆さん、それから特許庁の職員の皆さんが、知財行政に対して真面目に取り組んできていただいた、その結果ではないかと思

っております。いずれにしましても特許庁あるいは審査官、審判官に対する信頼が揺らいでいることは確かでございます。これまで皆さん方が築いてきた信頼を取り戻すためには、我々はその何倍もの努力をする必要があるかと思

います。今後、信頼回復にむけて、我々は真面目に取り組





んで参りますので、本日いらっしゃいました御来賓の皆様方には、これまでと同様の御指導、御鞭撻をよろしくお願いいたします。

さて、ここから本来の懇親会の挨拶をさせていただきますと思います。昨年のこの会の挨拶でも申しましたけれども、これまでこの特技懇の会員の皆さん、関係団体の皆様方、ユーザーの皆様の御協力によりまして、特許庁の抱えております滞貨は着実に減ってきております。まだまだ審査順番待ち期間は29ヶ月前半で横這いでございますけれども、もうまもなく急速に短縮する見通しでございます。これは本当に会員の皆さん、そして関係者の皆様方の御協力の賜ではないかと思っております。

他方で経済のグローバル化の中で、近年、国際的な出願の数は、どんどん増えてきています。そういったことを背景に、各国特許庁の審査結果を相互に利用しようという、いわゆるワークシェアリングの取り組みが活発化してきております。また、ユーザーの皆様からも、これだけ国際化している中で、国際的な特許権取得の予測可能性の向上について、今まで以上に強い要望が出てきております。私としましては、この両者の解決手段としては、結局の所、各国の特許庁が的確な審査を行って、安定した権利を付与する、これしかないと思っております。しかし、そのような世界を実現するには、正直なところまだまだ時間がかかります。その過渡期においては、私が予想するに、ユーザーが第一の出願国を選んで出願す

る時代が来るのではないかと思います。まさに特許庁が国際的なコンペにさらされる状況が、そこまで来ているというように感じております。本日いらっしゃる特別会員の中にも、そういった懸念をお持ちの方は多数いらっしゃるかと思います。

これから日本国特許庁を担うのは、本日いらっしゃる会員、また新たに会員となった新人の皆さんです。是非とも日頃から5年後、10年後、30年後、この日本国特許庁がどうあるべきか、ということのを頭に置きながら、仕事をしていただきたいと思っております。

最後になりますが、本日いらっしゃった皆様方の御健勝と御活躍を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。

